

令和6年(2024年)12月16日

図書館の新時代を拓く、次世代ロボットがもたらす新しい体験の実現

図書館運営における次世代ロボット「temi」の実証実験開始

株式会社図書館流通センター(代表取締役社長:谷一 文子、以下「TRC」)と株式会社 hapi-robo st(代表取締役社長:富田 直美、以下「ハピロボ」)は、ハピロボが国内展開を担う次世代ロボット「temi」を、TRCが指定管理者として運営する公共図書館での運営業務の一部に活用する共同実証実験プロジェクトを開始しました。このプロジェクトは、先進的な技術を図書館運営に導入し、単なる業務効率化を超え、図書館が「人」と「技術」の協力によって新しい文化を生み出す未来の学びと交流の場へと進化することを目指しています。

temi プロジェクト概要

図書館は、これまでも情報を提供する場として重要な役割を担ってきました。しかし、未来の図書館はそれにとどまらず、人々がつながり合い、新しい体験を創造する「場」としての役割が期待されています。temi は、利用者同士の交流を促進し、図書館スタッフがより利用者に深く関われる時間を創出します。これにより、図書館は「人」と「技術」が一体となり、新しい文化を生み出す空間へと進化します。

□ 導入施設と期間

対象施設 東京都墨田区立緑図書館／東京都中央区立晴海図書館／TRC 本社ビル

実証期間 2024年11月から2025年4月までの6ヶ月間

□ TRC とハピロボの役割

TRC は、図書館運営業務における temi 活用の企画・運用し、図書館を未来の学びと交流の場として進化させることを目指し、temi の活用を通じて図書館の役割を拡大していきます。

ハピロボは、技術サポートを提供し、temi の供給・運用サポートを実施し、図書館の新しい文化創出に貢献するための基盤を整えます。

□ 図書館現場での主な実証実験内容

- ・告知:おはなし会・イベント等のアナウンス
- ・巡回:事前登録による館内巡回、閉館案内・声掛け
- ・案内:事前登録されたエリアへの誘導

□ 将来展望

TRC とハピロボは、このプロジェクトを通じて、図書館運営業務の効率化を図るとともに、図書館が単に情報の集積場所から、利用者同士がつながり、新しい文化を生み出す場へと進化することを期待しています。ロボット技術の進化により、人々が新しい学びと体験を共有し、図書館がその中心的役割を果たす未来を目指します。



temi プロジェクトの目的と期待する成果

1. 未来の図書館の創出

図書館は「本の提供」だけでなく、利用者が知識や体験を共有し、つながりを深める場へと変わります。temi は、自律移動や対話能力を活用して、利用者とスタッフのコミュニケーションを支援し、図書館の未来像を具体化し、サービスの向上を目指します。

2. 新たな役割と人の可能性を広げる

temi を活用することは、単に業務の効率化を担うだけでなく、図書館スタッフがより創造的な業務に取り組む時間を増やし、利用者の満足度を高めることを目指します。図書館は「もの」から「こと」へと進化し、利用者に新しい学びや発見の場を提供する場所へと変わります。

3. 人と技術の調和

temi は、最新のロボティクス技術を駆使しながら、その中心には「人」がいます。図書館スタッフや利用者が temi を通じて新しい可能性を引き出し、利用者同士のつながりを育む環境を提供します。



□ 株式会社図書館流通センターについて

書誌データベース(TRC MARC)の作成と販売、図書館向けの装備付図書等の販売と、全国に約 3,300 館ある公共図書館のうち 598 館で、業務委託と指定管理者等の図書館受託運営業務を行っています。学校図書館の支援業務や、電子図書館事業やデジタルアーカイブ事業をはじめ、軽自動車の移動図書館車 LiBOON(リブーン)など、図書館に関わるさまざまな機器・用品等の販売も行っています。

□ 株式会社 hapi-robo st について

ハピロボは、「人の能力を引き出し、成長させることで人々を幸せにする」というビジョンを掲げています。最先端のロボティクス技術を活用し、より良い社会と未来を実現するために取り組んでいます。企画や開発、導入、運用サポートまで、ロボットに関わるすべてのプロセスを一貫して提供する企業です。No.1、そして Only 1 のロボットカンパニーを目指し、革新的なソリューションを追求しています。